

人工芝でもドーピング？

「口に入れた覚えがない」 では守れない

ドーピング違反というと、多くの方は「薬を使った」「サプリメントを飲んだ」と考えると思います。

しかし、今回紹介する事例はそれとは全く違います。

2024年4月、ノルウェー女子サッカーリーグの試合後、両チーム合わせて8名の選手の検査から、禁止物質が検出されました。

検出されたのはDMBA (1,3-ジメチルブチルアミン) という中枢神経刺激作用をもつ物質で、WADA (世界アンチドーピング機構) の禁止表「興奮薬」に該当します。

そのうち1名は基準値を超え、本格的なドーピング調査の対象となりました。

当然、選手は「薬もサプリメントも使用していない」と説明しました。

では、なぜ検出されたのでしょうか。

約7か月の調査の結果、原因は意外なものでした。

試合が行われた人工芝に敷かれていたゴムチップでした。

人工芝のクッション材として使われていた黒いゴム粒は、廃タイヤから作られていました。このゴムが分解し、微量のDMBAが放出されていたことが判明しました。

選手は試合中の接触や転倒、スライディングの際に、口や呼吸からゴム粒子を体内に取り込んだと結論づけられました。

つまり、

「自分の意思とは無関係に体内へ入った」というケースです。

ADNO (ノルウェーのアンチドーピング機関) は「過失なし」と判断し、WADAも上訴しなかったため、選手の「潔白」は確定しました。

しかし、ここで重要な点があります。

ドーピング規則の原則は「**厳格責任**」です。体内から禁止物質が検出された場合、

「故意かどうか」

「知らなかったかどうか」

は原則として関係ありません。

アスリートは自分の体に入ったすべての物質について責任を負う、というルールです。

今回のように免責が認められるのは極めて例外的です。

この事例が私たちに示していることは明確です。

ドーピングは「飲んだ物」だけの問題ではないということです。

例えば次のような状況は、現実には起こり得ます。

- ・サプリメントの混入
- ・漢方薬の成分
- ・市販の風邪薬
- ・海外製栄養補助食品

そして今回のように「**競技環境**」も例外ではありません。

特にサッカーは、転倒、ヘディング、呼吸量の増加、接触が多い競技です。ピッチの状態は無関係ではありません。

今年は、国民スポーツ大会青森大会が開催されます。選手に最も大切なことは次の3点です。

1. 口に入れるものを自己判断しない
2. 薬・サプリメントは必ず確認する
3. 体調不良時は必ず事前に相談する

「大丈夫だと思った」は、ドーピングでは通用しません。

不安な場合は、チームドクターやスポーツファーマシストに相談してください。TUE (治療使用特例) という正式な手続きも用意されています。

競技力は努力で向上しますが、競技資格は一度失うと取り戻すには長い道のりを要します。選手生命を失いかねません。

正しい知識と事前確認が、あなたの競技人生を守ります。

～ルールを理解し、競技人生を守る～

いよいよ、10月は青森国スポ本大会です！

スポーツファーマシスト
JADA 承認 Educator
川村 仁
(青森大学薬学部)

参考資料

1. Anti-Doping Norway (ADNO). DMBA adverse analytical finding in Norwegian women's football players. 2025. Accessed 10 Feb 2026.
2. The Guardian. Artificial pitch causes Norwegian footballer to fail drug test; WADA declines appeal. 26 Nov 2025. Accessed 10 Feb 2026.